

すゝきのことに髻にまじりて

同しく情歌

僮丹 董

今宵くまるゝかもひの底を

袖にそくばの數つゝむ

探紅葉

小西 大東

露しもはふもとよりげに繁からし

とめさし山のかひのみみぢば

千もとの菊を植たひける人に贈るとて

仙人のめぐつてふ花をうつし植て

ちよをかそふるませのうち哉

此の會の八人の内には畫の大家が居られ面白き畫も出来ましたが之は此次に致し昇

忙中閑語

其 子

▲年は新になりぬ。さらば年と共に吾等の生活を
も新にせんか。昔者、支那の賢哲、日々に新なれ
と教へぬ。近くはカーチギーといふ人、一日毎に
己を改新する人にあらずんば、共に爲すに足ら
ずと誠めぬ。日毎に新ならんこと、吾等凡人に取
りては、誠に困難なりとするも、希くは年毎にだ
に新ならば、吾が望は足りぬべし。

▲不言實行といふこと、男子に取りても、もとより
ながら、女子には殊更必要の言葉なりかし。半熟
の教育を受けたる人、生嚙りの智識ある人は、時
としては、多言不行に陥り易し。かゝる女子は、
人の妻となりては、顎もて人を指圖する許り、自
ら手を下して家政の事に當らんとはせず、たゞ賢

こぶりて理屈のみを并ぶる不經濟の主婦なり、女
學校出の嫁入口少なりしは、主に之に原因したる
ものとぞ知られし。

▲言ふこと、強ちあしとにわらず、たい行はずし
て言ふことのみをする謹しむべし。先づ行ふこと
を力めよ。兎角は我國、言の人多くして行の人少
きか如し。家庭に於ても、學校に於ても、子供の
教育には、特に此點に心せんこと別して必要なり

▲支那にては、少言沈黙最妙といひ、西洋にては
語るは銀、黙るは金 Roden ist Silber, Schweigen
ist Goldと言ふ、共に不言實行を意味するなり

▲男子にて獨身生活の樂を語る人多し。げにや、
獨立獨歩、俯仰自由なること、獨身生活の如きは
あらず。たい老年、幾星霜を経たる後始めて其生
活の餘りに寂寥に、餘りに單純なりしことを感ず

るに至るべし。

本篇もと、題して家庭閑話といひ、その子とい
ふ名の下に、家庭に關するくさくを論じもし
評しめせりしが、本號よりは題も改めて忙中閑
語とし、名前も其子と改め侍り、因に、その子
は實名にはわらず、若し實名その子といふ人御
座さんとも、そは本篇のその子其子とは全く
關はる所なきことを、附け加へ置く。

雜報

編輯局より

▲新年の御吉慶千里同風、先づは目出度申納め候
まこと、歲月は流るゝが如く、何かと申す中に、
本誌も、こゝに満三歳の齡を重ね候、お蔭により